

成果指標				
成果指標	精神障害者や家族を対象としたデイケア・家族懇談会の参加状況や相談件数。自殺予防や心の健康に関する研修会等の実施回数、参加者数。自殺者数・率。			
指標設定の考え方	精神障害者や心に不安や悩みを抱える人その家族が重症化しないうちに気軽に相談できるようになる。また、健康教室の参加により理解が深まり、地域で安心して暮らすことができる支援体制の構築と指導者育成強化につなげる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	1840	1820	0	0
実績	1742	2103	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	<p>昨年二桁台に増加した自殺者数は、平成26年には前年の半数まで減少したものの、引き続き、データ分析を行い数年単位での動向をみていく必要がある。電話を含めた精神相談の件数は年々増加しており、疾病だけでなく、心の不調を感じたり悩みを抱える人が多くいることが伺える。第2次伊予市健康づくり計画においても約7割がストレスを抱えていることが課題となっており、各世代や地域に応じたストレス対策が重要と言える。個々のケースによって、生活環境や経済・家族状況等複雑な背景を抱えた人も多く、関係機関と連携を図りながら対応をしていきたい。自殺対策事業については、地区診断の結果、より優先度の高いものに重点をおいて、市単独でも事業継続できるよう課題整理を行った。来年度以降も、伊予市総合計画や健康づくり計画との整合性を図りながら目指す方向性に沿って事業を推進できるようにしていきたい。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	<p>精神障害者やこころに悩みや不安を抱える人及びその家族が、安心して生活できるよう関係機関と連携して、事業を継続していくことが重要である。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題